



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

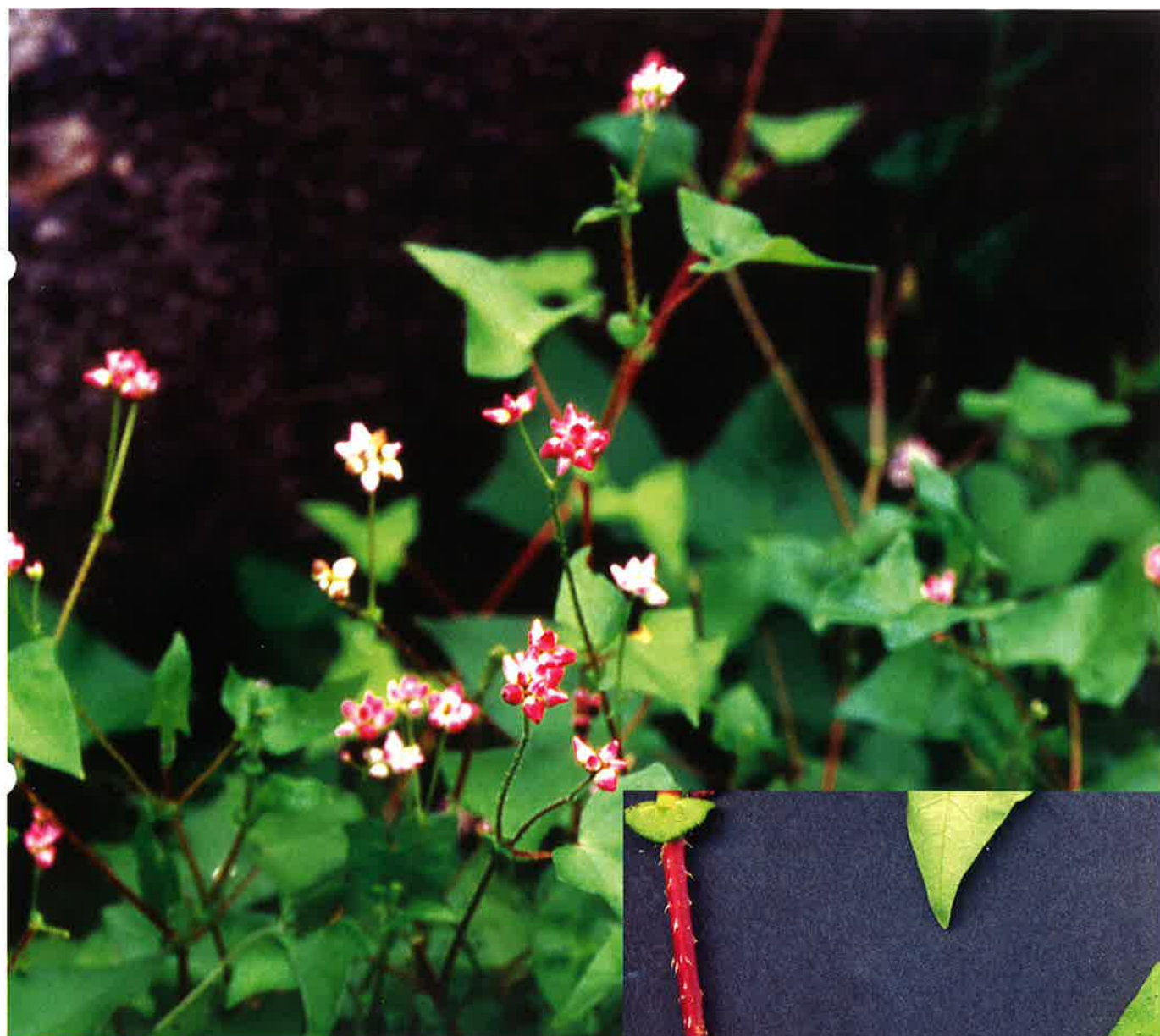
第28号

発行日：平成20年3月31日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷（株）

どうしてそんなにトゲがある？



こんぺいとうのようなかわいらしいピンクの花。その花に似合わず、トゲだらけの姿からついた名前がママコノシリヌグイ(継子の尻拭い)。ネーミングの真意はどうあれ、そのトゲの鋭さは、うっかり摘み取ろうと手を出した者を後悔させるのに十分な威力。でも、このトゲの役割は、身を守るためだけではありません。

トゲの形と植物の生き方

学芸員 石須 秀知

昨年、魚津埋没林博物館では「アンタッチャブルな植物たち」と題した企画展示で、いろいろな意味で“触りたくない”“触ると不快な目にあう”植物たちにスポットをあてました。おのずと痛いトゲのある植物が展示の中心になりましたが、一口にトゲといっても多種多様です。トゲの主な役割は、動物に痛い思いをさせ、食べられるのを防ぐことにあると考えられます。しかし、それだけではありません。展示の準備の中で、いろんな植物のトゲを見ながら、その形がもつ意味をあらためて考えることができました。ここで、そのときに気づいたことをいくつか紹介してみたいと思います。

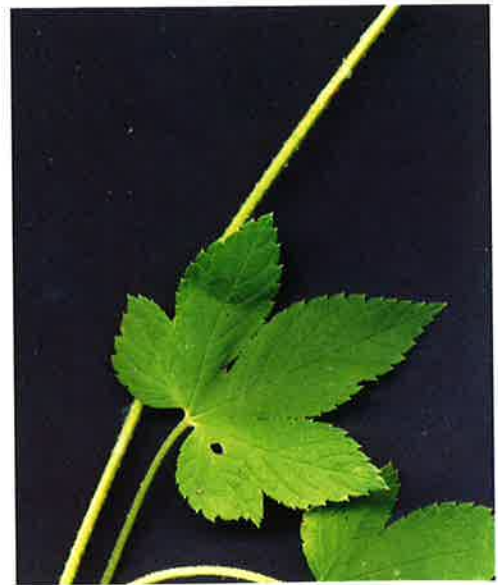


ノイバラ。下向きに曲がったトゲ

トゲのある植物といえばバラを思い浮かべる人が多いと思います。野生のバラの仲間では魚津市で最もよく見られるのはノイバラです。ノイバラの茎はややつる状に細長く伸び、他の植物などに寄りかかるように生育しています。その茎にあるトゲは太く、下向き(茎の根元の方向)に曲がっています。これは、葉などを食べてしまうような動物に対する防衛の役割とともに、まわりの物に引っ掛けて茎

を支える役割も持っています。このような2つの仕事をするトゲは、表紙で紹介したママコノシリヌグイなど、茎が細長く、他の物に寄りかかったりからみついたりする植物によく見られます。

つる植物のカナムグラやアカネでは、茎のトゲは下向きですが、ママコノシリヌグイなどに比べると小さく、指先でちょっと触っただけではあまり痛くありません。防御よりも滑り止めの意味が大きいようにみえます。しかし、それらのつるが密生した藪の中では、身動きするのも大変なほどに体中を引っかかることになるので、集団として防衛の役割も十分に果たしているようです。



カナムグラ。細かい下向きのトゲ

一方、タラノキやハリギリ、カラスザンショウなど茎が丈夫で自立する樹木などでは、トゲは曲がらずに茎からほぼ直角に立ち、防御効果が大きくなっているものが多いようです。それらのトゲは太く鋭く、皮の手袋も突き通すほどで、取扱いに油断するとけがをします。展示のための採集時には、特にハリギ

りとカラスザンショウに苦労させられました。



カラスザンショウ。茎に直角でまっすぐなトゲ

キイチゴの仲間も多くの種類にトゲがあり、おいしい果実を取ろうとして痛い思いをした人も多いと思います。その1種、モミジイチゴのトゲを見ていると、面白いことに気づきました。そのトゲは、上向き(茎の先端方向)に湾曲しているのです。これは、今回観察した中では例外的な特徴です。



モミジイチゴ。上向きにやや湾曲したトゲ

上向きに曲がったトゲはどんな場合に有利なのでしょう。やはり、モミジイチゴの生態と

関係がありそうです。モミジイチゴの茎は1~1.5メートル程度で、自立するので他の物に寄りかかる必要はありません。しかし、まっすぐに立つのではなく、弓なりに曲がり、上部は水平か、先がやや下がる形になります。この形は、上から押さえつけるような力を受けると、先端から地面に着くように倒れ、押さえる力がなくなれば根元に近い方から先端を引き上げるような形で起き上がろうとします。そのため、あくまで想像ですが、先端を向いたトゲは、倒されるときには抵抗になって倒れにくく、起き上がるときには引っかからずに起き上がりやすくなっているのではないのでしょうか。ただ、葉柄のトゲは茎とは違って下向きに曲がっているので、何かほかの意味があるのかもしれない。



モミジイチゴ

植物の形が多様であることは、いまさら言うまでもありませんが、その形の一つ一つにどのような意味があるか、想像をふくらますのは楽しいものです。トゲだけでなく、いろいろな部分の形を観察してみましょう。肉眼で見える大きな形から、虫眼鏡が必要な小さな部分の形まで、どんなに身近で普通に生えている植物でも、必ず他の植物とは違う特徴があります。それらの形には、生物の長い進化の歴史が反映されているはずですが、その形にどんな意味があるのか、何が生存や子孫を残すのに有利に働くか、想像力、推理力を働かせてみてください。

シリーズ

埋没林の仲間たち ②7

カヤツリグサ科

カヤツリグサ科の植物は、海岸から高山まで、どこへ行っても必ず生えていると言ってよいほど多様な環境に適応しています。しかし、きれいな花も咲かず、どれも似たように見えるため、注目されることは少ないようです。

カヤツリグサ科には、人里や農耕地周辺などに多いカヤツリグサ属のほか、科の中でもっとも種類が多いスゲ属、湿地に多いハリイ属やミカヅキグサ属などがあります。



林などに生えるニシノホンモンジスゲ



湿地に生えるオオイヌノハナヒゲ

* * *

魚津市内ではこれまでに85種のカヤツリグサ科植物が記録されています。

魚津埋没林では、平成元年の発掘調査でカヤツリグサ科の花粉が出土しています。森林と水辺の環境が混在していたと推定されているので、多種多様なカヤツリグサ科の植物が生育していたと考えられます。

お知らせ

●平成20年度のおもな行事予定

☆企画展示

蜃気楼写真展 ————— 5月1日(木)～6月30日(月)
 蜃気楼の“お宝”と歴史資料展 7月1日(火)～7月31日(木)
 穴・あな展 ————— 8月1日(金)～10月31日(金)
 魚津の美しい自然と祭り — 11月1日(土)～11月30日(日)
 魚津ナチュラルギャラリー◎ 1月2日(金)～4月30日(木)

☆ふれあい学習会

食べられる草ど～れだ? ————— 4月26日(土)
 四つ葉のクローバー見つけた! — 5月24日(土)
 洞杉・沢スギと埋没林めぐり ——— 9月27日(土)
 もみじで楽しく葉書づくり ——— 10月25日(土)
 つるつるつくる ————— 11月22日(土)
 冬の蜃気楼ウォッチング ————— 2月15日(日)

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } 徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814 ☎(0765) 22-1049
 ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
 e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

